

2026 年度 武蔵野大学 入学者選抜試験における出題意図

《英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰ）》

本学の英語の出題は、大学入学後の学業遂行に必要な基礎的な英語習熟度を総合的に測るために、基礎的な文法力や読解力だけでなく、実際のコミュニケーションに必要な総合的な英語力を測ることを目的としています。具体的には、会話文では実際のやりとりによく登場する表現から状況に応じた自然な応答を選ぶ力が求められます。文法問題では正確な語法や時制の理解、並べかえ問題では語順や語句のまとまりに関する知識が問われます。読解問題では、内容理解、推論、要旨把握など、文章と文脈を深く読み取る力が求められます。これらを通して、基礎的でありながら実用的かつ多面的な英語運用能力を総合的に評価することが狙いです。

《国語（現代の国語、言語文化）》

本学の国語の出題は、高校の「現代の国語」「言語文化」を通じて学ぶことのできる本教科に関する基礎的な知識・能力がどれだけ身に付いているか、また、その知識・能力を運用して文章を読み解く力がどれくらいあるかを問うものです。大問3題のうち共通問題1題と選択問題1題に解答します。共通問題は論説文や小説等の現代の文章を主たる題材としてその力を問うもので、選択問題は現代の文章を主たる題材とするもの1題と、古文を主たる題材とするもの1題のうち、どちらか1題を選択することができます。いずれの大問においても、文章の幅広い内容や表現を読み解く力があるか、また、漢文や韻文、劇文学、文学史や漢字・語彙などを含め、日本の言語文化に関するたしかな知識や理解力があるかを判定します。

《数学Ⅰ・Ⅱ・A・B（数列）・C（ベクトル）》

本学の数学Ⅰ・Ⅱ・A・B（数列）・C（ベクトル）の出題は、大学入学後の学修に必要な数学の基礎能力を測るために、「学力の3要素」のうち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。全体は4つの大問で構成し、そのうち1題は教科書の標準レベルの小問5問により、基本的な知識と計算力を測定します。残りの3題では、分野の偏りに配慮しつつ、条件の整理能力、論理的推論力、そして最後まで計算を完遂する力を評価します。また、一部の学部・学科を受験する数理的志向の高い受験生に対しては、数学Ⅲの内容や記述式問題を選択できるようにし、学修に必要な適性を適正に測れるよう工夫しています。

《数学Ⅰ・A》

本学の数学Ⅰ・Aの出題は、大学入学後の学業遂行に必要となる基礎的な数学习熟度を総合的に測ることを目的としています。出題構成は、大問4問が標準です。大問ごとの出題意図は、以下の通りです。

大問1では、主に基礎的な知識・技能の理解を測ることを意図しています。出題範囲全般から小問を5問程度出題することで、試験対象の学部・学科において必要とされる最低限の数学的な知識・技能の理解を要求します。

大問2から4では、主に総合的な思考力・判断力・表現力等を測ることを意図しています。それぞれの大問は特定の領域に偏らないよう配慮した上で、領域別に出題されます。また、大問内で出題される設問は原則として相互に関連しており、設問間の関連を読み解いた上で数学的な問題解決をなせるかどうかを要求します。ただし、大問2から4においても知識・技能の理解を測る設問も設けられており、そういった意味で「総合的な」学力を測ると言えるでしょう。

《世界史(歴史総合、世界史探究)》

本学の世界史の出題は、本学のアドミッション・ポリシーに基づき、知識・専門性および思考力・判断力の2点について、入学後の各学科の学修を進める上で十分な水準に達しているかを問うものです。第一に、知識・専門性に関しては、高等学校の世界史分野の学習において身につけるべき基礎的な知識についての問題を数多く出題し、各学科の教育を受ける上で必要な基礎知識を身につけるための意欲や能力が十分な水準に達しているかを確認しています。第二に、思考力・判断力に関しては、多角的に課題をとらえる力を測るために、様々な時代・地域の歴史に関する問題や通史問題、画像および地図を使った問題を出題しています。また、短文の正誤を論理的に判断するような問題を通じて、リード文や既存の知識などの断片的な情報から創造的に課題を考える意欲を判断しています。。

《日本史(歴史総合、日本史探究)》

本学の日本史の出題は、古代から近現代に至る幅広い時代をまんべんなく扱い、政治・経済・文化・国際関係など多角的な視点から、大問を4つ出題します。史料読解問題も取り入れ、与えられた資料から事実を正確に読み取り、その背景や意義を考える力を評価します。また、重要な出来事の年代や経緯、人物や制度の関係性、日本文化の成り立ちと特徴についても問うことで、基礎知識の定着と理解の深さを確認します。出題内容は高校で学ぶ範囲に基づいており、単なる暗記にとどまらず、知識を整理・関連づけて活用する力や、歴史的な因果関係や社会の変化の流れを論理的に理解する力を総合的に測ることを目的としています。歴史的事実を正確に把握し、豊富な知識を整理して、自分の考えを構築し説明できる力を持った学生を求めています。

《政治・経済（公共、政治・経済）》

本学の政治・経済の出題では、教科書・資料集の基礎的な知識を問う設問をベースとし、時事的な内容やそれに関する背景など国内・国際社会に対する関心を問う設問も含め、入学後の各学科の学修を進める上で基礎的な知識・専門性および思考力・判断力が十分な水準に達しているかを測ります。出題構成は、政治分野の大問が2問、経済分野の大問が2問としています。

政治分野では、国内政治・法関連（自由権、日本の司法、内閣、日本の少子高齢化問題）、国際的な事象に関するもの（グローバリズム、イデオロギーと国家、アメリカファーストと日本、人間の安全保障）をそれぞれ出題し、経済分野の出題にあたっては、様々な経済項目・経済問題（財政・税、金融、国際経済・貿易、企業、経済史・経済思想史、労働、環境）の基礎知識を中心に問うています。また歴史的な問題だけでなく、時事問題も含め、近代・現代いずれの知識も問う設問を用意しています。

《物理（物理基礎、物理）》

本学の物理の出題では、「物理基礎」と「物理」で学習する、力学、波動、熱力学、電磁気、および原子物理の5つの分野における基本的な法則や知識を幅広く問うとともに、計算能力を総合的に測ることを目的としています。大問1は4問から6問程度の小問集合であり、大問は5つから6つ程度で構成されています。

《化学（化学基礎、化学）》

本学の薬学部を志望する受験生対象とした化学の出題では、本学薬学部アドミッション・ポリシーで示している「求める学生像」に合致し、将来「薬」に関する業務に携わる者に必要な基礎学力を有する学生を求め、入学後の学修において必要な化学の基礎学力を測るための試験を課しています。大問4問から構成され、①物質の構成と変化、②酸化還元および化学平衡・反応速度、③無機化学、④有機・高分子化学となっています。単なる化学に関する知識だけでなく、化学の学修に必要な計算力や思考力を問う問題が含まれています。

薬学部以外の学部を対象とした化学の出題では、入学後の学業で必要となる基本的な化学知識が身についているかどうかを確かめることを目的としています。具体的には、高等学校学習指導要領に定められている化学基礎（化学と人間生活、物質の構成、物質の変化）、および化学（物質の状態と平衡、物質の変化と平衡、無機物質、有機化合物、高分子化合物）の分野から全体的に偏りなく出題しています。

《生物（生物基礎、生物）》

本学の生物の出題では、生物の基礎的な知識と思考力を総合的に問うことを意図しています。そのため、生物基礎も含めて生物の内容を全体的にバランスよく、学習指導要領にある「(1) 生物の進化」、「(2) 生命現象と物質」、「(3) 遺伝情報の発現と発生」、「(4) 生物の環境応答」、「(5) 生態と環境」の5つの大項目すべてを網羅するような内容としています。

また、知識と思考力を総合的に問うという観点から、知識としての定着を問う問題とともに、実験系の問題等でその状況を想起しつつ、考察したり数学的な手法を用いたりするような問題を組み合わせる構成としています。これにより、知識の定着の状況とともに探求して考える力の状況が見えるようにしています。

《情報（情報Ⅰ、情報Ⅱ）》

本学の情報の出題では、情報に関する科学的な見方・考え方を備え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識・能力がどれだけ身につけているのかを測ることを目的としています。情報社会における基本的な知識を確認すると共に、情報の利活用に関する思考力・判断力を問う内容としています。単なる知識にとどまらず、様々な事象を情報とその結びつきとして捉えて理解し、問題の発見・解決に活かすことのできる力を評価することを意図しています。